

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立東濃フロンティア高等学校

学校番号

6507

1 学校教育目標	一人一人の個性を大切に、主体的に生きる人間の育成に努める。 1 真理の探究 … 創造力豊かな自ら学ぶ生徒の育成 2 人格の陶冶 … 他を思いやる心豊かな生徒の育成 3 体力の増進 … 心身ともに健康でたくましい生徒の育成					
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)			
	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら主体的に学ぶ姿勢と、進んで自らの人生を切り拓く意欲的な生活態度を身に付けた生徒 ・モラルやマナーを尊重する態度と、望ましい勤労観や職業観及び社会性を身に付けた生徒 ・心身ともに健康で逞しく、「生きる力」を身に付けた生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数教育を活かして、生徒一人一人の特性に配慮した魅力ある授業づくりの推進とともに、各教科の授業において、生徒に身に付けさせたい基礎・基本を明確にし、その確実な定着と生徒の興味・関心の喚起による主体的な学習態度の育成 ・社会生活の基盤となる基本的な生活習慣を確立させ、守るべきルールやマナーを理解し遵守する自己指導能力の育成 ・特別な配慮が必要な生徒への支援の在り方の研究の推進と支援の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・学び直しのできる学校において、自ら学ぶ態度と基礎的・基本的な学力を身に付けたい生徒 ・社会的な自立を目指して、自己肯定感を高め、「生きる力」を身に付けたい生徒 ・地域活動などの校外の自主的な活動や、生徒会活動や部活動などの校内の活動に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 			
3 現状の分析	<p>○三部制・単位制の特色を生かした「自ら選び、自ら学ぶ」「学び直しのできる」学校づくりに対しては、8割以上の保護者・生徒が肯定的に捉えている。また、「本校に入学してよかった」という生徒も9割を超えており、本校の学校運営の姿勢については概ね理解が得られており、生徒の学校生活に対する満足度も高い。</p> <p>▲不登校経験を有する生徒に加え、発達障がい診断を受けている生徒（またはその疑いのある生徒）や外国にルーツを持つ生徒など、ますます多様な生徒が入学しており、生徒の基礎学力や規範意識とともに自己肯定感・自己有用感を養い、生きる力を身に付けさせることが求められている。</p>					
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な学力の定着を図り、学ぶ意欲を育て、生徒一人一人の進路実現を果たすこと ・生徒に達成感や充実感、自己肯定感及び自己有用感を与える指導と支援を行うこと ・生徒のソーシャルスキルを高めると共に幅広い社会性を養うこと 					
5 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の育成…本校独自の教材や科目を活用し、少人数教育の特色を生かして、基礎学力の確実な定着を図る。 ・社会性の涵養…ルールやマナーを順守する姿勢や、仲間とともに生きる力を育成する。 ・キャリア支援の充実…「総合的な探究の時間」を通して、適切なキャリア教育を推進する。 					
年 度 目 標			年 度 末 評 価			
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価	11 成果と課題	12 総合 評価
教 務	①基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成をめざした学習指導の推進	①年2回の公開授業週間を利用し教材研究、教科会での振り返りによる授業改善 ①年2回「授業に関するアンケート」実施 ①ノート学習の評価と分析 ①考査情報分析(欠点者数の推移や再試結果等)	①100分授業やF科目、少人数クラスを設定し、各教員が工夫して丁寧でわかりやすい授業を心がけ授業に取り組むことができた。 ①タブレットなどICT教育機器の利用についての研修や意見交流を通して、分かりやすい授業の実践に繋げることができた。	B	▲学習支援という点で、継続的かつ効果的な支援を行う必要がある。出席停止が多く、授業に参加できていない生徒が増えている。情報共有し、心理的サポートをしながら学習支援を続けていく必要がある。 ○授業については、履修条件を周知徹底することでマナーや取り組み状況について改善が見られた。授業アンケートでも、授業がわかりやすいという意	A
	②特色と魅力ある三部制・単位制・少人数授業の効果的実践	②生徒及び保護者の学校評価 ②生徒及び保護者、公開授業	②生徒及び保護者の学校評価や公開授業参観者アンケートによると、本校の少人数授業	A		

		<p>参観者へのアンケート ②年2回「授業に関するアンケート」実施と分析</p>	<p>や少人数クラスに対する期待や満足度は高く、その教育的な効果を実感する感想が多い。 ②授業に関するアンケートでは、相対的に、生徒の授業への取り組み状況に改善が見られた。</p>		<p>見が多く、これからも生徒側の視点に立った授業を行いたい。 ○ICT教育機器については多くの教員が利用できている。今後は効果的な活用についての研究を深めていきたい。</p>	
	③教員の資質を高める研修の推進	<p>③年2回の公開授業週間（他教科も参観する） ③年2回「授業に関するアンケート」実施と分析 ③ICT教育機器利用</p>	<p>③年2回の公開授業週間を設けて互いの授業を参観し合うことで、生徒理解や授業改善に繋げることができた。 ③ICT教育機器利用について、理解を深めることができた。</p>	A		
進路	①CT(チャレンジタイム)を活用してキャリア教育を実施する。	①生徒及び保護者等へのアンケート	①1年次は進路ガイダンス、職業インタビュー、2年次は面接指導、進路ガイダンス、3年次はキャリアガイダンス、面接練習を実施した。	B	B	<p>○コロナ禍であるが、3年ぶりに3年次の合同企業説明会や、1・2年次の卒業生が語る会など実施することができ、進路意識を高める機会が増加した。 ○2年次の面接指導後、オープンキャンパスに参加したり、就職試験に向けての勉強をしたりする生徒が増加した。 ▲3年次生の面接指導時の身だしなみの指導が不十分であった。卒業までに最低限のマナーや常識を身に付けさせたい。 ○昨年度に引き続きインターンシップを、企業の理解と協力により実施することができた。</p>
	②生徒一人一人に合った、適切な進学・就職指導を行う。	②進路実現状況 ②就職内定率	②2年次生の全員に対し、2月に面接指導と面談を行い、進路希望や進路実現のための課題について話を聞いた。また、3年次生全員に対して、面接練習を行った。 ②特別な支援を必要とする生徒に対して早期に対応することができた。	A		
	③進路指導に関わる情報を収集し、教科・年次・分掌等へ発信することで学校と外部のパイプ役を務める。	③生徒及び保護者等へのアンケート	③キャリア教育の全体計画及び年間指導計画を作成し、それに基づき各年次、分掌と連携し、キャリア教育を実践した。	B		
生徒指導	①基本的な生活習慣・規範意識の育成 ・社会生活の基盤である生活習慣の確立と、高校生として守るべきルールやマナーを理解し遵守する姿勢を育成する。また、身だしなみを整えさせる。	①生徒・保護者アンケート ①問題行動の状況 ①年次会等での情報共有	①機会あるごとに生活指導を実施した。必要に応じ、年次集会を開いた。 ①身だしなみについては、正装の日に年次ごとに細かく指導ができた。 ①毎週の年次会で生徒情報の共有ができた。	B	B	<p>○問題行動発生時に速やかに情報を共有し、組織で対応した。 ▲発達障がいと思われるような生徒について、指導が難しい場面が増えた。 ▲身だしなみを整えることのできない生徒に対し、効果的な指導ができなかった。 ▲バスの乗車マナーや駅前での行動など、公共の場でのマナーについて何度も指導をする必要があった。 ○生徒会は、自分たちで学校を良くしようと主体的に活動する姿が見られた。 ○生徒会を中心にボランティアや地域活動に積極的に参加する姿が見られた。 ▲親子関係が上手くいっていない家庭もあり、生徒への指導について家庭での支援が難しい場面があった。</p>
	②豊かな人間性の育成 ・内面からの変化を求め、自ら進んで取り組む事のできる自己指導能力の育成を図る。	②生徒・保護者アンケート ②問題行動の状況 ②生徒会・ボランティア活動の状況	②生徒会活動では、生徒が自ら進んで行動できる姿が見られた。 ②中学生との交流事業などを通し、地域や社会に貢献しようとする姿勢が見られた。	B		
	③全校体制と共通行動の確立 ・年次を中心とした指導体制の確立と、全職員の共通理解・統一行動を図る。	③年次会等での情報交換 ③企画委員会、生徒指導委員会、主事会等での情報交換	③生徒の状況を、管理職も含め、年次主任や担任、教育相談と情報共有することで、問題行動やいじめに対し、組織的に対応することができた。	B		

	④安心・安全な学校作り ・自分とは違う個性を認め、お互いを尊重できる生徒の育成を図ると共に、家庭や関係諸機関との連携を深め、安心・安全な学校づくりに努める。	④生徒の学校生活アンケート ④教育相談との連携 ④関係諸機関との連携	④問題や悩みを抱える生徒については、教育相談・SCなどと連携して相談しやすい環境をつくることができ、安心・安全な学校づくりにつなげることができた。 ④毎日校内巡回指導を実施できた。 ④特別な支援が必要な生徒について、専門知識を持つ職員から助言をもらうことができた。	A	○様々な問題を抱えている生徒についてケース会議を開き、対応のしかたについて共通理解を図ることができた。	
教育相談	①教育相談・特別支援教育活動の充実と、校内の援助支援体制を整える。	①担任と生徒との面談日の設定 ①個別の教育支援計画の作成 ①「心のアンケート」を月1回実施 ①ケース会議の実施	①春と秋の2回、担任と生徒との面談を行うことができた。 ①中学より個別の教育支援計画を引き継いだほとんどの生徒について支援計画を作成することができた。 ①すぐメールによるアンケートで何かを訴えてきた場合は、直ちに情報を共有し対処した。 ①様々な問題を抱える生徒については複数回ケース会議を行った。	A	○アンケートで得た情報を担任・年次・生徒指導部と直ちに共有することで細やかな対応を行った。 ▲発達障がいや有する生徒に対する具体的な合理的配慮について、普通科高校でどのように実施すべきなのかという課題は残る。 ○職員研修会として、発達障がい地域支援マネージャーの長江さんより、特別支援教育に係る社会資源について学んだ。 ○カウンセリング利用者の担任とカウンセラー、教育相談担当者とのコンサルテーションを行い、生徒に合った対策を取った。 ○特別支援教育支援員2名の配置があるが、支援が必要な生徒が多く、すべての生徒への支援ができていない側面はあるが、ゼミ担任や教科担任との連携は、スムーズであった。 ▲様々な問題を抱えている生徒がいる現状の中、スクールカウンセラーやスクール相談員を今以上に活用していきたい。	A
	②心理検査を実施し生徒の状況を把握する。職員の資質の向上に向けた研修を実施する	②1年次でのテストバッテリーM2＋検査の実施・分析。 ②職員教育相談研修の実施	②テストバッテリーM2＋の分析結果について全教員で情報を共有することができた。 ②8月に特別支援教育に係る社会資源についての職員研修会を実施した。 ②特別支援教育支援員の勤務時間と、各教科担任の要請をマッチングさせるため、二週間分の勤務一覧を職員室に掲示し、教員が要請しやすい環境を作った。	A		
	③家庭や外部機関と連携・協力して、最も適切な支援ができる方策を考える。	③スクールカウンセラー及びスクール相談員によるカウンセリングの実施 ③東濃圏域発達障がい支援センター、子育て支援課や子相との連携	③カウンセリング実施後は、スクールカウンセラー・担任・関係職員とでコンサルテーションを行った。 ③生徒の家庭における問題点を把握し、スピード感を持って外部機関と連携した。	B		
保健厚生	①健康の保持増進 ・こころと体の健康の保持増進に配慮し、規則正しい生活が送れるようにする。 ・安全で健康的な食について考えさせるとともに、食事のマナーを身に付けさせる。	①感染症発生状況 ①検査・検診結果 ①保健室利用状況データ ①身体測定結果 ①給食指導 ①消毒の徹底 ①給食座席表作成 ①コロナ保健指導 ①コロナ健康チェック ①献血に関するアンケート	①新型コロナウイルス感染症対策のため、毎日の健康チェック、校内の消毒、保健指導に加え、生徒会や生活委員と協力し、換気・黙食・咳エチケット等呼びかけを実施した。 ①保健室利用者404件(12月末現在)感染対策のため体調不良者が自宅で療養することから来室が減少している。 ①外部講師による献血セミナーを実施した。	B	○新型コロナウイルス感染症対策のため、生徒職員の健康観察・健康管理を実施できた。 ▲やせと肥満が二極化した。肥満生徒に対し定期的に体重管理及び食育と運動を呼びかけた。 ○献血に対する知識を得るとともに、献血に対する考え方の変容があった。	A
	②安全教育の充実 ・ルールやマナーを身に付けさせるとともに事故防止を図る。	②事故発生件数 ②傷害状況 ②医療費給付状況	医療費申請 昨年度10件→今年度11件 ②命を守る避難訓練を2回実施し、起震車体験を予定したが県下でコロナ感染者が増えたため受け入れ中止。来年度に再度計画したい。	A	○危機管理・防災意識の向上に向け、教職員全体で取り組むことができた。今後も引き続き指導する。 ▲簡単な原因で捻挫をした生徒が多かったため、丁寧に準備運動を行うよう呼び掛けたい。	

	③校内美化 ・学習に適した環境づくりを通して美化意識の高揚に努めるとともに、全員で美しい学校をつくる。	③環境衛生検査結果 ③校内安全点検結果 ③生徒・職員へのアンケート	③教室換気の呼びかけができた。 ③定期的な安全点検・修繕により、より安全な教育環境が整備された。 ③ICT導入にともない整備された遮光カーテンのクリーニングを行い環境整備に努めた。	A	○学校環境衛生優秀活動校に認定された。	
渉 外	①生徒の健全育成のため、家庭や地域との連携を深める。	①育友会と生徒が一体となり取り組む諸活動 ①安全振興会便りや、家庭向けリーフレットの配布 ①本部役員によるあざむき運動	①年度当初は挨拶運動を計画していたが「コロナ禍」の影響で今年度は中止とせざるを得なかった。 ①育友会役員との連絡は密にできた。(メール等で)	B	○3年ぶりに「朔陵祭」が実施され、『育友会バザー』も縮小されたものの行うことができた。また、今年度も「思泉坂清掃」は多くの役員がボランティアとして参加してくれた。	B
	②学校行事や育友会行事の持ち方を考え、PR活動を積極的に展開する。	②朔陵祭バザーや展示企画への参加を通じた保護者同士の連携 ②PTA活動の広報誌である朔陵だよりの充実	②本年度もコロナ禍の影響により、主な学校行事が中止となり保護者と連携する機会がかなり減少した。 ②生徒の写真を多く配置して、ビジュアルに訴え、わかりやすい朔陵だよりの作成に取り組めた。	A	○育友会の広報誌はカラー刷りで、夏・冬の年2回発行でき、生徒の生き生きとして活動する姿を会員に発信できた。 ○保護者の校外進路研修会は7月に実施でき、大学・専門学校・企業(工場)を見学し、有意義な研修会ができた。	
	③育友会組織の研究を進めるとともに、親子間や保護者間の心の交流が図れる諸活動を積極的に実践する。	③年間5回の育友会役員会を通して、育友会活動の展開を協議、実践していく。 ③PTフォーラムの活動に積極的に取り組む。	③昨年度より本部役員会と母親委員会に分かれていた会議の形態を改め、母親委員を育友会委員と改称し、役員会の開催は最小限とすることが定着した。	B	○外部とのPTA活動に関しては、今年度は、多治見地区はウェブ開催となったものの、東海大会・全国大会は3年ぶりに対面・集合開催となり、他府県の高校との交流ができ大変参考になった。	
	④1年後に創立20周年を迎えるにあたり、同窓会の定期総会を開催できるよう進めていく。	④同窓会組織の効率的な運営と、学校行事への参加・連携の促進	④同窓会組織の名称を変更し、同窓会役員の意識向上に努めることができた。 ④昨年度同様、遠隔地の理事が会議に参加出来るように、Web会議での開催とした。	B	○令和2年度から、同窓会組織が自ら効率的な組織運営を行えるようになってきた。オンライン会議(Zoom)やSNS(LINE)などを使い、若い感性を活かした積極的な取り組みがなされるようになった。 ▲今年度は育友会総会以外の行事はほとんど実施できたが、諸事情により次年度の本部役員を選考が難航することが予想される。また今後は会議の持ち方など保護者の負担を極力軽減する組織運営が求められる。	
図書・情報	①図書資料の適切な選定と購入を進め、蔵書構成の充実を図る。	①生徒や教職員・各教科のリクエストへの迅速な対応 ①話題の図書の情報収集	①「図書館だより」(毎月発行)「館報あざむき」(年2回)等を通じた図書啓発活動。内容面の一層の充実	A	【図書】 ○年間を通して通信等を利用した啓発活動ができた。	B
	②「図書館だより」発行や館内展示の工夫により、生徒の図書館と読書への興味関心を高める。	②生徒や教職員の来館数・貸出冊数の集計、分析を適宜行う。 ②多読賞の表彰	②新刊・新着図書の紹介・案内 ②企画展示 ②「図書館教育ニュース」の定期購入 ②「先生のオススメ本」紹介 ②「図書委員のオススメ本」紹介 ②多読賞の表彰	B	▲生徒の読書への興味関心と貸出冊数増加に繋がらなかった。 ▲図書委員の活動が消極的となり、教員による図書活動で補った。	
	③芸術鑑賞会、生徒会主催の行事を通して芸術や文化に対する豊かな感性を育む。	③芸術鑑賞会の実施 ③図書委員会による文化祭参加 ③生徒アンケートの集計結果	③3年ぶりとなる芸術鑑賞会を実施。異文化に対して理解を深めることができた。 ③図書委員会として文化祭展示に参加することができた。	A	【情報】 ○職員の協力により、情報セキュリティの事故を起こすことなく1年間過ぎた。 ○ICT教育推進委員会との業務を明確化した。教員・生徒用タブレット等の保守管理の徹底を図ることができた。	

④図書館システムの構築作業を円滑に進める。	④適宜、蔵書管理のデジタル化の進捗状況	④蔵書データのデジタル化 ④図書の貸出・返却手続きの簡素化	A		
⑤職員セキュリティ・プライバシー・著作権等に関する意識の向上を図る。	⑤隔月のセキュリティチェックを通じた正しい理解度の把握 ⑤月1度の生徒用タブレット等の保守管理	⑤隔月のセキュリティ・チェック実施 ⑤適宜、セキュリティポリシーの啓発活動を職員に対して行った。 ⑤タブレットの保守管理と、定期点検の実施を行った。	A		

II 学校関係者評価 実施年月日:令和5年2月6日

・過去3年間にわたり生徒の90%以上が「本校に入学できてよかった」と感じている。教職員、学習指導、生徒指導、進路指導等の多方面の項目において生徒の実態、ニーズにあった支援ができていると考えられる。

・学校の取り組みや保護者対応については高く評価されている。一方で学校の取り組みを伝える発信力に関しては改善が求められている。

・校則（身だしなみ指導）の見直しを、生徒の主体性を大切にしながら、段階を追って保護者とも連携を取りながら丁寧に進めていることがよい。

・少人数授業を通して、生徒と教師の信頼関係ができていることが授業参観をした際の生徒の様子から感じられた。

・ICT機器の有効活用や、発達障がいをもつ生徒にもわかりやすい授業づくり（ユニバーサル化）に取り組むことにより、多くの生徒の学力向上につながっていることがとてもよい。

・外部講師を招いて研修会を実施し、職員の専門性を高める取り組みを毎年実施していることはよい。（令和4年度は「特別支援教育に係る社会資源」をテーマに実施した。）

・土岐市駅前における本校生徒の様子はとてもよくなった。自分たちで駅前の清掃のボランティア活動をしていることも影響していると考えられる。

・学校運営協議会委員と生徒会役員生徒の交流により、生徒の声を直接聞くことができよかった。生徒会の活動を通して役員生徒一人一人が自身の成長を実感できていることがとてもよい。

・地域と学校が繋がり、情報交換を頻繁に行うことはとても重要であり、より多くの生徒を支援することが可能となる。これまで以上に多様な取り組みをしてほしい。

13 来年度に向けての改善方策案

- (教務)
 - ・履修修得を目指させる指導及び授業規律の徹底
 - ・生徒に身に付けさせたい基礎学力の共通認識と授業改善
 - ・生徒の「深い学び」にむけてのICT機器の活用推進
 - ・通級による指導の実施に向けての校内体制の確立
- (進路)
 - ・個に応じた進路指導のさらなる充実
 - ・特別な進路支援を要する生徒への対応と外部の協力体制の構築
 - ・キャリアガイダンスの充実と改善
 - ・インターンシップ（就職体験）の効果的な実施方法の研究
 - ・新入試制度に対応した進学指導体制の確立
- (生徒指導)
 - ・情報モラル教育・トラブルの防止と礼儀やマナーの改善
 - ・校則を見直すうえで、身だしなみ指導の在り方の検討
 - ・ボランティア活動等、社会活動への積極的な参加
- (教育相談)
 - ・個別の教育支援計画の作成とその有効活用
 - ・特別支援教育支援員と教員とのスムーズな連携
 - ・通級による指導等、特別な支援を必要とする生徒に対する指導についての、職員に対する研修や啓発
- (保健厚生)
 - ・感染症に対する指導の徹底
 - ・各種検診の事後処置の徹底
 - ・非常変災時に各自で速やかに行動できる実践力を高めること
 - ・命を守る訓練を通じた人命尊重の教育
- (渉外)
 - ・PTA活動、同窓会活動の活性化と精選。地域の方と生徒との協同作業の推進
- (図書・情報)
 - ・図書館利用の活性化、図書貸出数の増加
 - ・ICTの有効利用、情報セキュリティの徹底